



育てたピワで人助け

道の駅で販売、収益寄付



手作りの看板やパンフレットを手にピワをPR



元気に接客する児童

【大分】大分市神崎の神崎小6年生10人が20日、全校児童で育てた地元特産のピワを近くの道の駅「たのうらら」で販売した。収益を寄付し「困っている人を助けたい」と初めて取り組んだ。

大分市・神崎小 6年生 元気よく接客、30分で完売

児童は、地域の特産品の歴史や栽培の苦労を知る授業の一環で毎年、住民に協力してもらい、隣接する畑でピワの袋がけや草取り、肥料やり、収穫を体験している。6年生が担任の高瀬菜教

論20と一緒に「いつもお世話になっている地域のたにできること」を考えた結果、今年収穫したピワを道の駅で販売し、売り上げを世界中で困っている人のために役立ててもらおうことにした。

18日に全校児童で40キロを収穫。6年生がバック詰めし、栽培の工程やレシピ、学校の魅力を書いたパンフレットを作成した。おつりの渡し方、呼び込みの仕方なども練習した。児童は「甘くておいしいピワはいかがですか」「ゼリーやジャムにお勧めです」と元気よく接客。1パック500円で、用意した65パックが約30分で完売すると、買い物客から拍手が湧き起こった。佐藤真生さん(11)は「ドキドキしたけど、地区内外の人に食べてもらい、学校のことを知ってもらえるのがうれしい」、石井大和さん(11)も「イノシシに食べられないよう鈴をぶら下げたり、網を張ったりした。今年が一番大変だったけど頑張ったかいがあった」と笑顔で話した。収益の全てを日本赤十字社東支部、チャイルドラインにおおいたなど4団体に寄付する。

(藤沢香)



〔問①〕大分市の神崎小学校の6年生が全校児童で育てた地元特産のビワを販売した理由は？。

解答例) ・収益を寄付し「困っている人を助けたい」と考えたから
・売上げを正解中で困っている人のために役立ててもらうため

〔問②〕販売をするために、6年生はどんな準備をしましたか。

パック詰めし、栽培の工程やレシピ、学校の魅力を書いたパンフレットを作製した。
おつりの渡し方、呼び込みの仕方なども練習した。

〔問③〕1パック(①)円で、用意した(②)パックが約(③)分で完売すると、買い物客から拍手が湧き起こった。()に当てはまる数字を記事から抜き出して書きましょう。

①500

②65

③30

〔問④〕困った人を助けるために、何ができるかグループで話し合ってみよう。

グループ討論